

撮影：野原聡哲

最後の「理工学部」（2023年度に「理工学部」から「創域理工学部」へ、名称変更となります）

2023 SPRING

記念講演会の報告

山崎 晃弘(野田建築会顧問 / 理窓会副会長 1976卒 上原研)

寺本 健一
Office of Teramoto 代表

第17回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展
金獅子賞(国別参加部門)

「ドバイから房総へ」



撮影：宮原夢画

■経歴
1974年生まれ。2000年東京理科大学大学院(小嶋一浩研究室)修了。2000年-2002年ロッチルダムの Nestlings Riedijk。2002年-2012年東京のシラカンスアンドアソシエイツを経て2012年にドバイに拠点を移し ibda design (後に watwai と改題) を共同経営。2021年に千葉船橋市に拠点を移し Office of Teramoto を設立。

2022
11/13
Sun.

記念講演会

大宮 喜文
東京理科大学理工学部建築学科 教授

2021年
日本建築学会賞(論文)

「建築火災安全設計の合理化に資する火災拡大性状予測手法に関する一連の研究」



■経歴
1996年東京理科大学大学院理工学研究科建築学専攻博士後期課程修了。1996年東京理科大学理工学部建築学科助手。1998年建設省建築研究所研究員・主任研究員。2001年独立行政法人建築研究所主任研究員。2007年英国キングストン大学ロンドン火災発煙研究センター客員教授。2008年英国アスター大学火災安全工学技術研究所客員教授。現在、東京理科大学理工学部建築学科教授、博士(工学)、一級建築士、JAFPE 防火技術者

■日時・場所
2022年11月13日(日) 13:00 - 16:00
東京理科大学神楽坂校舎1号館17階 記念講堂

■主催
野田建築会、築理会

■申込み方法
QRコードよりお申し込みください(先着150名)

■申込みはこちら



■プログラム
13:00 開会の辞
13:20 講演
15:00 座談会
15:40 祝賀乾杯
16:00 閉会の辞

■会費
祝賀乾杯1000円(当日徴収、学生無料)

2022年11月13日(日)、大宮喜文氏・寺本健一氏「記念講演会」が神楽坂記念講堂で開催されました。

本会は、野田建築会と築理会の2学科同窓会主催、理工学部と工学部の2建築学科および国際火災科学専攻の共催による史上初のイベントで、出席者は94名(当日飛び入り3名)でした。

今日までには、7月に計画したもののコロナ禍により開催を延期し、ようやく開催に至った経緯があります。

講演は、大宮先生による日本建築学会賞(論文)受賞記念「建築火災安全設計の合理化に資する火災拡大性状予測手法に関する一連の研究」、寺本先生によるヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞受賞記念「ドバイから房総へ」です。



以下、講演会の模様――

司会は菱崎会長(野田建築会)にお願いし、開会挨拶は兼松先生(理工建築主任)、河野先生(国際火災科学専攻主任)、次に山崎記念講演委員長(理窓会副会長)から大宮先生と寺本先生との関係性と、祝賀のエア乾杯について説明を行いました。

第1部「講演」では、大宮先生から歴代研究室の系譜をはじめ建築学科の歴史、火災安全設計の合理化のお話し、続いて寺本先生からヴェネチア・ビエンナーレ受賞に至る経緯、拠点を勝浦に戻した理由とその効果のお話しがありました。

第2部「座談会」では、ナビゲーター山名先生により、今本先生(工建築主任)と兼松先生(理工建築主任)が加わった5者座談会がおこなわれ、なかでも建築学科の将来性について工・理工合同の建築学部構想など、ややオフレコな内容もあり盛り上がりました。



菱崎会長(野田建築会)



山崎記念講演委員長



大宮喜文先生



寺本健一氏



座談会風景 ナビゲーターは山名善之先生



座談会後、壇上の記念写真

(記念写真左より兼松、河野、佐野、寺本、大宮、山崎、上村、今本、菱崎、山名、以上敬称略)

第3部「祝賀会」は、佐野築理会会長（理窓会副会長）により、浜本理事長のメッセージ代読のあと、エア乾杯で祝杯を挙げ、来賓の上村理窓会副会長（薬学部同窓会会長）から祝辞を受けました。



佐野築理会会長



上村理窓会副会長

最後は、今本先生（前出）による締めのご挨拶で滞りなく、定刻時間内で閉会しました。

さて、この記念講演会は上述のとおり2同窓会と2学科1専攻による初めての合同イベントとなり、建築学科同窓会と建築学科・火災専攻との密な関係性を、一方、理窓会関連団体内で3団体のみの学部学科同窓会（薬学部、野田建築会、築理会）が今後さらなる相互連携を、それぞれ深める機会になったことは間違いなく、併せて今後の野田建築会活動に、とりわけ3団体連携の活動に大きな発展性を感じた次第です。

卒業生の皆様にはますますご協力を仰ぎますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



兼松学先生



河野守先生



今本啓一先生

記念講演会プログラム

野田建築会・築理会 主催
工学部建築学科・理工学部建築学科・理工学研究科国際火災科学専攻 共催

2022年11月13日(日)@神楽坂記念講堂(1号館17階)

開会の辞	13:00	司会 野田建築会会長 菱崎嘉昭
開会挨拶		理工学部建築学科 兼松 学 理工学研究科国際火災科学専攻 河野 守
プログラム説明		記念講演委員長 山崎晃弘
第1部	13:20 講演	
		・日本建築学会賞(論文)受賞記念 「建築火災安全設計の合理化に資する火災拡大性予測手法に関する一連の研究」 大宮喜文氏 ・ベネチア・ビエンナーレ国際建築展金獅子賞受賞記念 「ドバイから房総へ」 寺本健一氏
第2部	15:00	ナビゲーター 理工学部建築学科 山名善之
		座談会「建築界の将来について」
第3部	15:50 祝賀乾杯	築理会会長 佐野吉彦
		来賓挨拶 理事長 浜本隆之(メッセージ代読)
		来賓挨拶 理窓会副会長 上村直樹
閉会の辞	16:10	工学部建築学科 今本啓一 以上

海外の設計事務所に飛び込む



いづち みのる
井土 稔

1987年 神奈川県横浜市生まれ
2011年 理工学研究科建築学専攻
小嶋一浩研究室卒業
2014年 神奈川大学大学院 曾我部昌史研究室
修士課程修了
2012-2013
studio gollwitzer architekten gmbH
(Munich, Germany) インターン
2014 ~ studio gollwitzer architekten gmbH
(Munich, Germany)

私は小嶋一浩先生が理科大を退官する2011年の小嶋研卒業生です。小嶋研の解散に伴い、交換留学制度のある大学院に進もうと考え、地元の神奈川大学の大学院に進学しました。修士2年のときに、交換留学の面接に落ち、代わりに休学して海外インターンに行こうと思い、現在も働いているドイツミュンヘンにある設計事務所 studio gollwitzer architekten (以下 studioGA) を知人に紹介してもらい、ワーキングホリデービザを使って約10ヶ月間インターンをしました。その後インターン先で内定をもらい、帰国して修士設計をし、その後現在に至るまで約十年間 studioGA で働いています。インターン当時(2012年)は大変でした。studioGA ではスタディ模型を一切作らず、すべて3Dで検討、さらに図面は小さい事務所なのにBIMで制作する当初の日本では考えられない労働環境でした。カタコトの英語でコミュニケーションしながら四苦八苦していたのを今でも覚えています。ただ私がインターンしていた当初は自分とボスを含め5人(現在は15名)という社内環境だったため、たくさんコンペや実務のプロジェクトをやらせてもらえました。その経験は非常に大きかったと思います。

StudioGA では主にプールプロジェクトを担当しています。ヨーロッパでは海のない国が多いため、プールが公共施設として非常に重要な立ち位置にあります。また1980年代に建てられたプールが多く、ちょうど建て替え時期ということもあり、新しいプールのプロジェクトがここ10年ドイツ国内に多数存在しました。そのためプールを専門とする設計事務所がドイツ国内には存在します。プログラムが決まっているため空間デザ

インに特化できるのも利点の一つです。私はこの10年でプールの改修及び新築を数件担当しました。Treuchtlingen 市民プール(15000㎡)の改修及び増築ではプロジェクト立ち上げから竣工までほぼ一人で担当。現在はロシアのプロジェクトを担当しています。現在は将来的には独立したいと考えてるので、次のステップを検討中です。



Hallenbad Dachau (Dachau, Germany) (建設中)

あらためて思うこと



やまもと くにひろ
山本 邦博

1968年 三重県伊勢市生まれ
1994年 理工学研究科建築学専攻
修士課程修了(堀川研究室)
修了後、実家の有限会社タヒチ真珠へ入社
南太平洋の無人島での真珠養殖事業に従事
その後百貨店でパールのジュエリー製品の販売
に進出
活動範囲を全国に広げ 現在に至る

皆さんは伊勢神宮にある神宮茶室をご存知でしょうか。この茶室は、将来何を志すべきかと悩んでいた高校2年生の私が初めて触れた「建築」でした。その美しさ、気高さに衝撃を受け、私は建築の世界へと導かれていきました。

そして大きな期待と小さな不安を胸に理科大へと入学するも、時はバブル景気の真っ只中。設計の課題ももちろん楽しかったのですが、田舎育ちの私にとっては東京で見るもの全てが刺激的で、深夜の高額時給のバイトで稼いで週末東京で遊ぶ日々…(笑)

4年生になると堀川研究室に所属し、先生の著書「アテネから伊勢へ」に出会うこととなります。

もう手元にないので不確かな記憶ではありますがその中に「建築の価値」について書かれた一説がありました。

～建築の価値の一つは「実用性の価値」、すなわち外の環境から中の空間を守るといった建築にとっては根本的な価値。もう一つは「実用性以外の価値」(筆者註:平たくいうと空間性とか、質感、あるいは匂い等々といったその建築が持つ要素によるもの)～

この「実用性以外の価値」という言葉が私の心にストンと落ちました。あの神宮茶室で受けた衝撃はこれだったのだと。私が建築や音楽、美術に心惹かれるのはそこなのだ。

そんなことを本学(堀川研)で学べたこと、気づかせてもらったことが今も私の財産となっています。



Altmühltherme Treuchtlingen (Treuchtlingen, Germany) サウナエリア

この「実用性以外の価値」と言う概念は、建築を学んだからこそ気づけたこと。現在私が携わっているジュエリーの価値ともピッタリ符合します。ジュエリーの場合実用性は皆無に等しい。しかし古代より人はその価値を知り、ジュエリーや装飾品を身に纏い、特別な時間を特別な感情で過ごしてきたのだと思います。

とかく経済合理性や利便性といった実用的な価値が求められる今の時代にこそ、不変の美しさを放つジュエリーが人の心に豊かさやゆとりをもたらしてくれるものと信じて、日々お客さまの笑顔と向き合っています。



現在取り扱っている商品の代表的な写真
タヒチで養殖される黒蝶（くろちょう）真珠のマルチカラーネックレス
貝が生み出す真珠の中で最もカラーバリエーションが多いのが黒蝶真珠
（全て天然の色なんです）



理科大の院を修了後4年ほど生活をしてきた無人島の養殖場の写真です

永遠のギタリスト ジェフ・ベック



みやけ ゆうじ
宮宅 勇二

1976年3月卒業（井口研究室）
株式会社建設 代表取締役
（公社）兵庫県建築士会 会長
東京理科大学 理窓会 兵庫支部長

新年早々ショッキングなニュースが飛び込んできた。1月13日の新聞で知ったのだが、イギリス近郊に住んでいたジェフ・ベックが細菌性髄膜炎を患った後、10日に安らかに息を引き取った、との事。ジェフ・ベックとはブリティッシュロックの三大ギタリストの一人で、ポール・マッカートニーら多く

のミュージシャンに影響を与えた、と言われている。ちなみに三大ギタリストの内、あとの二人はレッド・ツェッペリンのジミー・ペイジとクリームのエリック・クラプトンです。

私は音楽が趣味で若い頃はギターを弾いていました。中でもロックとフォークが得に好きで、邦楽では井上陽水や泉谷しげる、吉田拓郎を、洋楽ではビートルズやシカゴ、ディープパープル、ピンク・フロイドなどよく聞いていました。（なつかしい）その中でも、このギタリストは特別だ！と思ったのがジェフ・ベックだった。

ジェフ・ベックは性格的に難しい人だった、と当時はそう思われていて、だからすぐにバンドを解散してしまう、とも言われたようだ。ロッド・スチュアート（ヴォーカル）とバンドを組んだ時は、いいコンビで特に「アイ・ビーン・ドリンキング」は大変好きな曲だ。それと生ギターでソロのインストゥメンタル（英国の民謡）「グリーン・スリーブス」も印象に残る。

しかし、何と言ってもジェフ・ベックの特徴はロックにおけるインストゥメンタルの確立ではないか、いやロックという領域を超えていたとも思うが。なかでも私の特に好きな曲はジェフ・ベック・グループの時の「デフィニットリー・メイビー」やアルバム「ブロー・バイ・ブロー」の中の「フリーウェイ・ジャム」や「哀しみの恋人達」は本当に素晴らしい。感動する。ロイ・ブキャナンに影響された、という事も言われていますが、彼の「メシアが再び」もいい曲だ。

また、自分独特の音楽を追求していったと言われているが、その一面がリズムに表われているのではないだろうか。「ブロー・バイ・ブロー」のアルバムの中の最後の曲だったと記憶しているが、「スターダスト」は5拍子、その他にも7拍子の曲、カーマイン・アピス&ベックの時には9拍子の曲を作っている。その意外性には驚かされる。「スターダスト」はヴォーカルのないインストゥメンタルの曲ですが、極寒の晴れた日にスターダストがキラキラと降り注ぐ感じがしみじみと出て、画面をみるような気がします。

数年前、ジェフ・ベックは来日して東京と尼崎で公演しました。尼崎アルカイックホールでの公演を見に行きました。今から思えばあの時、思い切って行って良かったなあ、と思っています。

その時のバンドメンバーは以前のメンバーとは全く違っていたのでしょ。名前も全くわかりませんが、質の高いバンドだなあ、そしてジェフ・ベックのことを崇拜している、と感じたのは私だけではなかったと思います。

ジェフ・ベックとロッドスチュアートの音楽上でのかけ合いを彷彿させるようにその時はジェフ・ベックとベース（女性で名前はわかりません）のかけ合いが素晴らしかった事が印象に残っています。

「ギター小僧」「孤高の職人肌」と称されるジェフ・ベック。ある新聞では、演奏技術、音楽的な感度、人間的な度量。そのどれが欠けても彼の偉業は成立しなかつただろう、と書かれていた。ジェフ・ベックのご冥福を祈ると共に、今後も「ロックの殿堂」で永遠に生きてほしい。



利根運河シアターナイト 2022 本祭活動報告

シアターナイト 2022 実行委員 藤田 尚眞 (学部3年)

利根運河シアターナイトとは、利根運河周辺を舞台とした「水と光」の祭典であり、本団体は2012年より東京理科大学工学部建築学科を中心とした学生有志が毎年企画・運営を行い、今年で10回目を迎えました。

今年度は「回遊」をサブテーマとして、東から西へ歩き回ってもらうことで、利根運河の新たな場の創出を体験してもらいたいと考えました。東から、眺望の丘・高架下・運河水辺公園・西深井散策の森の4つのエリアを12:00から20:00の数時間ごとに分け、また、それぞれの場所でインスタレーション作品展示・出店・ライブを行い参加者に楽しんでいただきました。

た。利根運河シアターナイト10回目という記念すべき年に、代々引き継がれる伝統の継承と新しい可能性を見出した利根運河シアターナイトを目指しました。



築理会（工学部建築学科校友会）の新年会に招待されました！

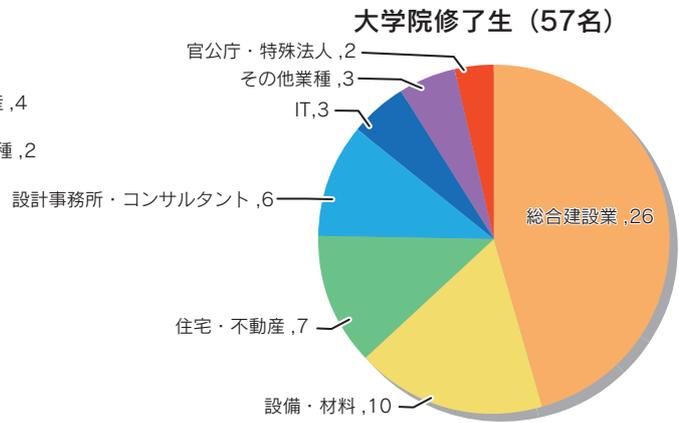
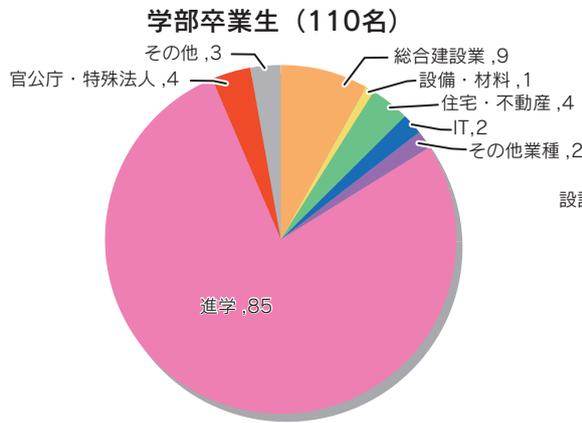
菱崎 嘉昭 (1987年卒 上原研)

2023年1月21日土曜日、築理会の新年会に招待され、山崎、栗飯原、好土崎、白岩、菱崎の5人で行って参りました。会場は、千駄ヶ谷の国立競技場横にあるビルの11階で、国立競技場のトラックの一部を上から眺めるといって、希少な経験をさせていただきました。また、会はZOOMによるオンラインと複合のハイブリッドで開催され、工学部の先生方は、葛飾キャンパス（工学部は、今、葛飾キャンパスです）から、スクリーンに映し出された画面から出席されていました。

野田建築会は、今後も、築理会との合同のイベントを通じ、「建築学科」出身として、工・理工の垣根をこえて、お互い深い繋がりを築いていきます。みなさまと一緒に集まって語らう時間が訪れること、楽しみにしています。



2021年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻 各就職先リスト



信じるんだ、自分を、仲間を、叶える力を。

Believe.

高める、つくる、そして、支える。



熊谷組



若手社会人の声 ～建築の幅広さ、奥深さ、面白さ～



たかなし あつし
高梨 淳

1996年 千葉県生まれ
2015年 千葉県立大多喜高等学校 卒業
2019年 東京理科大学理工学部建築学科 卒業
2021年 東京理科大学大学院理工学研究科
建築学専攻 修了 伊藤研究室
2021年 戸田建設株式会社 入社

私は現在、社会人2年目で意匠設計の業務をしています。会社教育方針により1年目は施工管理職として現場配属、2年目より設計部に配属しています。そんな今思うことは「建築の幅

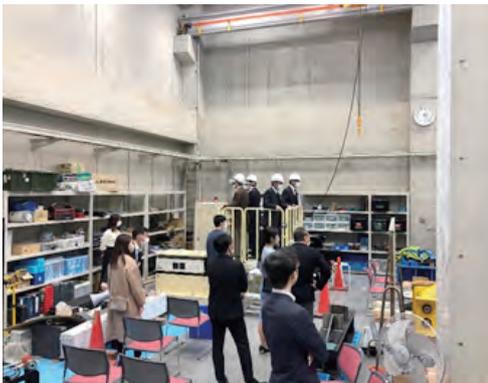
広さと奥深さ、そしてその面白さ」です。建物一つ一つには学生時代には思ってもいなかったほどの、時間、知識、技術、人員、労力、金銭と実に多くの幅広い要素が、複雑に絡み合っただけでなく、成立していることを実務を通して知りました。業務では知らないことの連続で、悪戦苦闘の日々です。ですがそれこそが「建築の面白さ」だと改めて感じています。学生時代に学んだ感性や思想、設計における法規や納まり、現場における高精度技術、幅広い分野の中でそれぞれのプロが奥深く携わりやっとなりの建物が完成する。「建築は本当に面白いな」と。まだまだ知らないことばかり、これからも建築の面白さを楽しみながら学んでいきたいと思っています。末尾になりますが、野田建築会の益々の発展を祈念しております。

第6回 なみの会（井口&永野研究室）が開催されました！！

栗飯原 功一（1985年卒 井口研）

『なみの会』（永野研究室と前身である井口研究室のOB/OG会）が、2022年11月19日（土）、2年ぶりに開催されました。

今回はⅡ部構成で、Ⅰ部は利用が始まったばかりの新実験棟に集合、建築学科の実験施設紹介の後、VR仮想空間とコラボされた加振機による地震体験イベントが行われました。Ⅱ部は新7号館に移動し講演会、テーマは『改めて動的相互作用を語ろう』です。冒頭、井口先生の講義では（今まで誰も知らなかった？）秘話を織り交ぜた先生のヒストリーを知ることができ



地震体験

ました。続いてOBの講義、吉田洋之さん（東電設計）、飛田善則さん（浅沼組）、森清宜貴さん（鴻池組）による近々の研究内容を説明いただきました。



集合写真

参加者は、OB・OG・先生方で約20名、在学生（M生、学部生）を加えて、総勢50名超が集まり盛況な会となりました。コロナ禍の折、懇親会はできませんでしたが、次回（2023年度）に期待したいとおもいます。

水汲みて 恩師の墓参 冬ぬくし

柳町 啓介（1987年卒 上原研）

東京の奥座敷である奥多摩から八王子にかけて広がる丘陵地。そんな雄大な場所に佇む東京霊園は、もう冬めきはじめていました。

2022年12月4日（日）上原研究室のOBの方々と共に故上原先生の七回忌のお墓参りをさせて頂きました。

風もなく快晴。

先生のお人柄のような温かく穏やかな陽気の下、水を汲みましたが冬なのにちっとも冷たくありませんでした。OBの方がご用意されたお線香を手向けたところ、煙たたくなく大変良い匂いがしました。

大きな青空に先生のご尊顔が浮かび、「笑いは大切ですね」と仰ったような気がしました。

墓参の方々（卒業年）

八田(1980)、山岸(1981) 日高(1984) 出塚(1984)
白岩(1985)、好土崎(1985)、柳町(1987)、菱崎(1987)
※前日墓参・献杯より参加 五十嵐(1978)





第 18 回ホームカミングデー (東京理科大学・理窓会共催) のお知らせ

(理窓会 HCD 実行委員会本部長 山崎晃弘 / 上原研卒 1976)

- ・ 2023 年 10 月 29 日 (日) 神楽坂キャンパスをメイン会場で 4 年ぶりの対面開催 (一部オンライン)
- ・ テーマ : “Back to the HomeComingDay”
- ・ 卒業 50 周年記念祝賀懇親会 : 10 月 29 日 (日) と 11 月 5 日 (日) に 1 号館記念講堂 (2 部構成)、11 月 25 日 (土) に野田 7 号館 6 階講堂、4 か年分を計 6 回で開催 ※対象の方 : 1970-1973 年卒
- ・ 卒業 40 ~ 10 周年懇親会 (4 か年分)、同窓出合いの広場、こうよう会 OGOB 再会の広場も復活 ! ※卒業 40 ~ 10 周年懇親会対象の方 : 1980-1983 年卒、1990-1993 年卒、2000-2003 年卒、2010 年 -2013 年卒
- ・ 理窓エンターテインメントほか学生活動、各団体による展示パネル、お楽しみ抽選会など多数のイベントを用意しています。皆様のご参加をお待ちします。予告なく変更の場合はご了承ください。
- ・ 参照 理窓会 HP (理窓会で検索) : <https://tus-alumni.risoukai.tus.ac.jp/>

【2022 年度のメルマガ・ヤマザキ賞について】

- ・ NAA メールマガジンの中で「最もいきいきとした感性あふれる文章」に対して贈る、「ヤマザキ賞」ですが、2022 年度は該当者なしという結果となりました。

山崎晃弘 (1976 卒上原研)

【編集後記】

理工学部が創域理工学部に変更されるとのこと、少々寂しい気もしますが理工の文字が残っているからまだいいですかね。記念講習会をお手伝いして、OB、学生、先生の間をつなぐをもっと広げたい、このような企画をもっと増やしていかないといけないと感じた秋でした。(大野芳俊)

去る 2 月 18 日に、野田建築会主催の建築見学会@つくば市が開催され、僭越ながら、私が設計した建物を案内させていただきました。最近完成したばかりのせせらぎ在宅クリニックと、おとの家、学生時代に仲間たちと DIY 工事で完成させたカフェ・メモリーズでランチ、そして、昨年ウッドデザイン賞といばらぎデザインセレクション知事選定をダブル受賞した茗溪学園トレーニング・部室棟を体験していただき、大変好評でした。また次号以降でレポートを掲載予定です。楽しみにお待ちしております。(とりやまあきこ)

大学へ行き、変わらぬ校舎、理工学部の文字などを見ると、学生時代へタイムスリップ。新しい領域と価値を創造するという特徴を明確にするために学部の名称変更へと。先のトリガーが一つ減るのは寂しい面もあるが、大学の更なる発展、今まで以上に様々なことが学べる場になればと。NAA も更に変化してく時期でしょうか。会員皆さま、宜しければご意見下さい。(野原聡哲)

会費納入のお願い

NAA では会則により、2023 年度 (2023 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日) の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、ノダ・アーキサロンの開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。
※年度会費の二重払いを避けるため、ご不明の場合は右記 HP よりお問合せください。

野田建築会会報 VOL.48 2023 SPRING

2023 年 3 月 1 日

編集:会報部会(大野 芳俊/とりやま あきこ/野原 聡哲)

発行:東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

銀行振込 ゆうちょ銀行 店番号 019 当座 27644

(氏名の横に『学部の卒業年』を西暦で記入してください)

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>



Facebook ページ

<https://www.facebook.com/nodakenchiku>

